

保健シラバス 高校1年

1. 学習の到達目標と評価の観点

(科目) 保健体育	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	1 単位	第 1 学年	・高等学校 保健体育(第一学習社)
学習の到達目標	・保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。		
評価の観点	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 ＜主体性・多様性・協働性＞		
	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 ＜思考力・判断力・表現力＞		
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 ＜知識・技能＞		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%

D：未提出，未実施・・・0%

2. 学習計画及び評価方法等

学期	単 元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
1 学期	・第2節 現代の感染症とその予防 1. 感染症の予防（教 p. 10～11）	(1) 感染症を防ぐための対策について、感染の仕組みとともに、正しい知識をもつことができる。 (2) 感染症の現状を知り、予防するための方策について考えるとともに、人権への配慮ができる。	・感染症が発症する仕組みや、感染症の種類を知り、感染症の予防には適切な対策が必要であることについての理解を深める。

	・第5節 精神疾患の予防と回復 1. 脳と神経の働き（教 p. 36～37） 2. 欲求不満と適応機制（教 p. 38～39）	(1) 大脳の各部の働きによる行動、精神活動に関する正しい知識をもつことができる。 (2) 自らの行動と、そのときの脳の働きについて、関連づけて考えることができる。 (3) 大脳を中心とした身体の機能調節についての情報を積極的に収集し、学習することができる。 (1) 欲求の種類について正しい知識をもつことができる。また、適応機制について、正しい知識をもつことができる。 (2) 欲求不満を回避するために自らがとった行動を、適応機制と関連づけて考えることができる。 (3) 人間がもつ欲求や欲求への耐性について、自らの体験などと照らし合わせて、積極的に調べることができる。	・人間の行動や精神活動などの全てをコントロールしている、脳・神経系・内分泌系の各部の働きについての理解を深める。 ・人間の欲求は様々なものがあるが、その全てが満たされるものではないため、欲求不満に対する耐性を身につけることの重要性についての理解を深める。
2 学 期	3. 心の健康と精神疾患（教 p. 40～41） 4. 精神疾患の予防と回復のために（教 p. 42～43）	(1) 心の健康について正しい知識をもつことができる。また、精神疾患にはどのようなものがあるのかについて、正しい知識をもつことができる。 (2) 心の不調について、自らの体験と関連づけて考えることができる。 (3) おもな精神疾患やその症状についての情報を積極的に収集し、学習することができる。 (1) 心と体のつながりを知り、心の健康を保つための方法について正しい知識をもつことができる。また、精神疾患からの回復のために行われている支援などについて、正し	・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、精神活動が不全になった状態であることについて理解を深める。 ・精神疾患は誰しものが罹患すること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な処置により回復が可能であることについて理解を深める。

	第2章 安全な社会生活 第1節 安全な社会づくり 1. 交通事故と安全の確保 (教 p. 48～49) 2. 安全・安心な社会づく り (教 p. 50～51)	い知識をもつことができる。 (2) 精神疾患の予防と回復について、習得した知識をもとに心身の健康を保つための行動や対策について考えることができる。 (3) 心と体のつながりについて、自らの体験などに照らし合わせて考えるとともに、精神疾患からの回復についての情報を積極的に調べることができる。 (1) 人・環境・車両の3つの要因によって発生する交通事故と、運転者の責任について正しい知識をもつことができる。 (2) 交通事故を防止するために必要な行動について知り、事故を回避するための、適切な行動を選択できる。 (3) 交通事故の原因や運転時の身体機能の変化について、積極的に調べることができる。 <グループ学習> 「ながらスマホについて」 (1) 安全な社会づくりのために行われている対策や、安全確保のための必要な条件について正しく理解することができる。 (2) 安全・安心な社会づくりのために行われている対策について知り、安全に暮らすための行動を適切に選択することができる。 (3) 安全に暮らすための対策について積極的に調べることができる。	・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や、歩行などの適切な行動が重要であることについての理解を深める。 ・タブレット ・課題を共有し、意見を出し合って、発表。 ・安全に暮らすための対策を知り、意識や行動についての理解を深める。
--	--	---	---

3 学 期	[体育理論] 第6章 運動やスポーツの効果的な学習方法 5. 自分の体力を知り，高めるために（教 p. 146～147）	(1) 自らの体力レベルを知る方法について，正しい知識をもつことができる。また，体力の高め方について，正しい知識をもつことができる。 (2) 自らの体力を分析し，日常生活のなかで，適切な運動を選択することができる。 (3) 体力の意義とは何か，自らの体力を知るためにはどのような方法があるか，また，体力を高める方法について，積極的に学習できる。	・体力の意義を知り，自らの体力を知ることの重要性や体力を高めるための方法についての理解を深める。
	6. 運動・スポーツ時の健康と安全の確保（教 p. 148～149）	(1) 安全なトレーニングのための具体的な方策について，正しい知識をもつことができる。 (2) スポーツ外傷・障害を起こさないために必要な配慮を，自らの行動に適切に反映することができる。 (3) スポーツ外傷・障害を起こさないためには，どのような配慮が必要であるのかを積極的に学習できる。	・運動の実施にあたっては，スポーツ外傷・障害などを引き起こさないために，様々な配慮が必要であることについての理解を深める。

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができる。 ＜主体性・多様性・協働性＞	授業課題進捗状況
健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，目的や状況に応じて他者に伝える力を養うことができる。 ＜思考力・判断力・表現力＞	作成課題の提出
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに，技能を身に付けることができる。 重要用語および関連事項を理解している。 ＜知識・技能＞	定期考査 ノート

【観点別評価】

1. ノート提出の場合

- A：板書・パワポ等で提示した内容だけでなく，説明した内容のメモが記載され，丁寧に記録されている。
- B：到達目標を達成している。
- C：最低限の板書内容の転記にとどまっている。